

第 7-9 回

(2009.5.22, 29, 6.5)

参考資料の種々とその利用

古賀 崇准教授

■ 第 7 回：講義（吉田南 1 号館 311）参加者 75 名 配布資料：A4 -8 種

□ 先行研究を調査する必要性とその方法を理解してゆく上で、レファレンスツールの種類・特徴・使用法を覚える。

○参考資料の活用

- ・ 参考資料の大まかな分類…

* 事典：ことからの概要や背景を把握する。（資料 1）

→ 百科事典：知識体系の構造化／専門家による定説の提示／一般向け

索引から引き、テーマの概要・主要文献・権威者を知ることができる。

引き方の説明（資料 2、資料 3）、百科事典データベースの検索

→ 専門事典：より深い知識

* 辞書：ことばの意味や用例を把握する。

→ 新語辞書：より新しい（時事的な）知識。

○「参考書以外」に注意すべき情報源など

- ・ レビュー／リーディングス
- ・ 資料の種類による質の違い・特徴を知る

（書籍と論文、入門書と教科書と専門書、一般雑誌記事と学術雑誌論文、学術雑誌論文と紀要論文）

○引用などに関するルールとマナー

- ・ 著作権における例外・・・教育の場での利用・図書館での利用・引用
- ・ DVD（約 10 分）「情報教育教材シリーズ 情報倫理デジタルビデオ小品集 3」
独立行政法人メディア教育開発センター，2008. - 「27. Web 貼り付けレポートは NG」
- ・ 注意点：引用は研究・批評を目的として。メインはあくまで自分の文章
引用部分の明確化（「」やインデント）・出典の明示の必要性
主体的に文章を読むことにより、引用する情報源の取捨選択をする

○演習について

- ・ 予習内容の提示（キーワードとその上位語・下位語・関連語を考える）
- ・ 演習の目的（検索式のつくりかた／「漏れ」を気にすること／論文と図書の検索方法の違い）
- ・ 演習で扱う分野ごとに教室内で分散してもらい、おおよその人数を把握する。
- ・ 演習当日の注意事項。集合場所・時間・入り口。持ち物（課題用紙を忘れずに）

■ 第 8 回：演習（附属図書館 3 階ライブラリーホール）参加者 87 名

□ 図書館で専門百科事典類を中心とする参考図書を用いて、基礎文献を調査し、所在を確認する。
ライブラリーホールにて先生から前回講義の補足および演習の説明（約 15 分）。その後 1 階へ移動し演習開始。

●演習内容

- ・ 課題 1「テーマを設定して、参考図書を探す」
テーマを設定し、キーワードを挙げる。その際、キーワードの上位語、関連語、下位語を確認する。テーマにアプローチする分野の参考図書(日本語のもの)を選ぶ。（予習）
- ・ 課題 2「参考図書を引いて、基本文献を探す」
1 階開架の参考図書を索引から引いて項目の掲載ページを確認する。役立つ項目の基本文献を書き出し、1 階端末コーナーの KULINE で所在を確認。京大内になければ NII を使用して他機関での所蔵を検索する。

■ 第 9 回：演習（学術情報メディアセンター南館 203、204）参加者 86 名

□ 信憑性の高い電子データベースで学術雑誌記事を調査し、その論文の入手法を確認する。

203 号室にて中継を用いて先生および補助者から演習の説明（約 30 分）。（資料 6）

●演習内容

- ・ 課題 3「雑誌記事索引(CiNii)を使って、論文を探す」
課題 2 で調べた項目の執筆者をその研究分野の権威者と考え、著者名から論文を検索する。上位語・下位語・関連語を意識してキーワードからも検索する。被引用件数を参考に論文を選び、雑誌の所在を確認する。